

平成 30 年第 2 回おおぶ文化交流の杜運営協議会

日時： 平成 30 年 11 月 20 日（火）14：00～16：00

場所： おおぶ文化交流の杜 文化サポーター室

出席者： 委員 6 名（1 名欠席）／大府市（文化振興課田中課長・山本係長）事務局（JTB コミュニケーションデザイン：以下 JCD 総合館長野村・文化部門マネージャー森・エリアマネージャー江口 図書館流通センター：以下 TRC 図書館館長峯岸・眞）

発言者

議事録

事務局 本日はお忙しい中お集まり頂き、ありがとうございます。
平成 30 年度第 2 回おおぶ文化交流の杜、運営協議会を始めさせていただきます。

司 会 アローブも開館 5 年目になりました。順調に運営していると聞いております。
本日は文化部門・図書館部門の上半期報告と、次期 5 年間の第 2 期おおぶ文化交流の杜中期事業計画について議論して頂きたいと思っております。
忌憚のないご意見をお願いします。本協議会の規約に則り、委員過半数の出席の為会議成立となります。

～H30 年度上半期文化交流部門より説明～

司 会 ご意見ご質問などお願いしたい。

B 委員 資料 2 ページに記載がある、広域外市民の区分数は前年より増加しているが、人数が大きく減っている（1,872 名→1,290 名）。理由は把握しているか。

J C D 例年 8 月に名古屋の音楽教室がミュージックフェスティバルで、ホールをご利用いただいている。昨年は 532 名の参加があったが、今年は 172 名の参加だった。この人数減が大きく影響していると思われる。

B 委員 貸館の申込み状況が、100%近くなっている部屋もあるが、これ以上の希望があった場合今後の展開を教えて欲しい。

J C D スタジオが該当すると思うが、実施される内容に合わせて、会議室など他の部屋に誘導して現在も対応している。音の問題もあり難しい部分はあるが、利用者にも相互理解を深めていただき、今後もうまく調整していきたい。

B 委員 100%に近づく事は良い事だが、トラブルが発生しないように上手く調整して欲しい。

C 委員 主にホールで実施している自主事業について、参加率が 90%に近いものもあれば 30%程度のものもある。採算は何%で取れているのか。赤字の補填はどのようにしているのか、無理のない範囲で教えて欲しい。

J C D アローブのホールは 315 名の定員しかないので、誘致する公演も制限が出てしまう。しかしながら市民の皆様の高い文化芸能に触れていただくということを目的に計画しているので、最初から採算が合うように予算を組んでいない。持ち出し部分の枠組みを考えて予算化している。

PFI で 15 年間の金額が決まっているので、その中で割り振りをして行っているのが現状。

C 委員 お客様が公演に来てくれる事が成功の第一だといつも考えている。商業ベースで考えたら、チケット代が高いものを実施していかざるを得ないが、それほど高い物は実施されていな

いようだがどうか。

- J C D 500円から高くても2,000円程度の公演が中心になっている。多くの方に気軽に文化に触れて頂けるような価格設定にしている。
- C 委員 出演者にも高いギャラは払えない中でオファーしている状況なのか。
- J C D アローブの設立の背景や公演の趣旨をご理解いただき、地元にはゆかりのある方などを中心にオファーしている。
- E 委員 参加率が少ない理由は分かるか。
- J C D ミュージックオンシネマのテルミンのように、名古屋にはない大府ならではの公演なども実施したが、参加率だけを考えずにこの規模のホールで行うのにふさわしく、且つ新たに体験してもらいたいという視点で演目を選んでいる。その結果全て満席になれば言うことではないのだが実際はそうではない。「ピンポン」のようにPRが難しい演目でも、子ども達に高い文化が提供できると判断すれば実施する。「カレーライスを一から作る」も、命をいただいて生きているという問題提起をするような内容で、決して娯楽として観て楽しいものではないが、大切なことを伝えてくれる映画だと判断し、あえて図書館こどもまつりに合わせて実施した。常に我々ならではの判断で演目を選定している。
- F 委員 ホールを利用する公演は、対象の年齢層があると思う。地元密着で進めていくとしたら、アローブや公民館だけにチラシを設置するのではなく、対象ターゲットに合わせてスタジオとかスポーツクラブなどにも配布するなど、広く広報活動を行うと集客に繋がると思う。大府ならではの情報発信を意識して、それぞれの団体が持つネットワークを利用してPRすることも大切。ワークショップをたくさん実施し、本公演のチケットとセットで販売するのも効果的だと思う。
- J C D 有り難いご意見なので、チラシの設置など相談させて欲しい。
- D 委員 事業実施報告書を読んでみたが、集客が悪かったときの分析が書かれていない。悪かった時こそ原因分析を行うべきだと思うので検討して欲しい。公演の内容は良いと思う。実際に参加された方の満足度はとても高いので、なぜ集客に繋がらないのか理解できない部分もある。是非次回から原因も含めて報告書を作成して貰いたい。図書館まつりの2日目に合わせて「カレーライスを一から作る」を上映されたと思うが、図書館まつりは小さな子ども参加が多いため、ターゲットが違うのではないかと集客について心配だった。意外に集まったようなのでとても良かった。
- J C D 実は上映について我々も悩む部分があった。鳥を絞める映像が含まれていたり、小さな子どもにとってはどうなんだという意見もあったが、告知をしっかり行うことで、内容を理解した上で参加して下さった親子連れもいた。
- 大 府 市 全体的にチケットの売上が伸び悩んでいると感じている。この経験を生かして今度も努力して欲しい。
- A 委員 「ピンポン」は9割近くで好調だったようだが、ワークショップを実施したり、様々な手段でPRしたことが功を奏したのか。
- J C D 「WAIWAI STEEL BAND」も事前のワークショップは実施しているし、「ピンポン」だけが特別ではない。ただ初めての試みということと、出演者が地元（愛知県内）の出身

なので独自のネットワークで拡大していったことも考えられる。

C 委員 細かいワークショップを続けながら公演に結びつけていくことが大切。

長い期間連続で行い、地道に文化の底上げをして欲しい。

A 委員 内容は良いので、地道にベーシックなところから育てて掘り起こしをしていくことが大切。

～H30 年度上半期図書館部門より説明～

司 会 ご意見ご質問などお願いしたい。

D 委員 英文多読の講座が毎回参加人数も多く盛り上がっている。本も充実して貸出点数も増えている。

A 委員 月に 2,500 冊の英語の本が貸し出されているのはすごいですね。

T R C 原書でそれだけ読んでいる方がいるのは本当にすごいと思う。

D 委員 サポーターズグループも無事に立ち上がったので、ボランティアさんが増えてくれると良いと思う。

A 委員 年齢層はどうなっていますか。

T R C 小中学生から高齢の方まで幅広い。講師の方によると、70 歳超えた方でも継続したらペーパーバックが読めるようになった事例もあるようだ。

英文多読のコミュニティーができている図書館は少なく、大府の事例が NPO の出版物やシンポジウムなど様々ところで発表されている。

D 委員 英文多読を豊田で行っている方から、多読用の本は読みやすいが、もう少しレベルアップした本を大府に増やして欲しいという意見もあった。豊田の図書館には数があるが大府には少ないとのことだ。児童文学の方が文法がしっかりしていて読みやすいという声もあるので、参加者のレベルアップに合わせて今後ラインナップしてはどうか。

B 委員 資料 14 ページのリクエスト数が減っていることは良い事だが、館内アンケートを見ると「資料が足りない」という意見もある。現状リクエストはカバーできているのか。

T R C リクエストは新たに購入するか、他の図書館から借りて対応している。

B 委員 あきらめてリクエストを出さないという事も考えた。どうなんだろうか。

きちんと対応していれば問題ないが、少し考えてみる事も必要かもしれない。

C 委員 貸出点数に対して、返却点数が足りない。理由を教えて欲しい。

T R C 公民館・石ヶ瀬会館・歴史民俗資料館の図書館がサービスポイントになっており、こちらで返却が可能なので、アローブで借りてサービスポイントで返却する現象が起きているためだ。貸出期間も 2 週間あるので必ずしも同数にはならない。

B 委員 このデータは必要ないのではないか。

大 府 市 公民館の活動を見る為にもデータは必要なので継続して欲しい。

C 委員 長草公民館で事業があった時に、機械が使えないので返却できないと断られた利用者がいたようだが、実際の運用はどうなっているのか。

T R C 公民館まつりを行っている時に稀に利用できない事があるようだが、基本的には返却は出来るはずである。

大 府 市 貴重なご意見ありがとうございます。公民館と共有して対応する。

- A 委員 今のご意見のような視点で数字を見ると、色々な事が分かる。
近隣の公民館などで返却できるのはとても良い。
- T R C 公民館で返却されたものはメールカーで回収している。
- E 委員 図書館子どもまつりは多くの方が参加されたようだが、シャトルバスの運行がなくても駐車場の問題は発生せずに終了することができたのですね。
- T R C 子ども達の参加が多いので、家の方に送迎してもらうケースも多い。また実施している時間も長いので、上手く分散できて混乱はなかった。
- E 委員 他のイベントを実施する時にも駐車場の問題がネックとなり、集客に結びつかないことも過去には多かった。
- T R C 図書館子どもまつりは平日に実施しているので、通常の利用者とバッティングしなかったのも良かった。
- D 委員 事業実施報告書の中で、経費があるものと無いものがあるが、理由があるのか。
- T R C 特に理由はなく担当者によってまちまちになっているが、今後は経費記載を徹底する。
- A 委員 お金をかけずに様々な事業を実施しており感心している。

～第2期おおぶ文化交流の杜中期事業計画「あしたの杜」文化部門の説明～

- 司 会 第2期は実施する回数などは第1期のままキープして、質を上げていこうと考える内容になっているが、ご質問ご意見お願いします。
- D 委員 育つのはだれかということ考えた場合、「育つのは市民である」ということをしっかり考えていくのが第2期。開館5年を迎えてアローブのスタッフも異動など入替えもあると思うがどうか。
- J C D 15年お預かりしている施設ではあるが、人事の件は現状では何ともお答えできない。
- B 委員 これまで積み上げてきた実績をしっかり引き継いでいただきたい。
せっかくサポーターのみなさんが活動しようと思っても、これまでの経緯が分からないと弊害も多いと思う。
- 司 会 育み隊への希望が多いが、ご意見ないでしょうか。
- E 委員 育み隊は60名位いたら良いと思う。事業実施報告書を見るととても良い内容なので、育み隊がPRするような能力を身に付けたらもっと盛り上がると思う。図書館のサポーターはとてもしっかりしているので、何を実施しても盛り上がっている。現状広報活動を育み隊は行っているのか。
- J C D ポスター掲示などメンバーの地元で出来ることをして頂いている。
- E 委員 やっぱり人の繋がりだと思ふ。育み隊が頑張るアローブを牽引していけると良い。
- C 委員 育み隊は実際何をしているのか教えて欲しい。
- J C D アローブで実施する事業をサポートしてもらっている。
- C 委員 具体的にはどのような内容なのか。
- J C D 12月に実施する「くるみわり人形」ではチラシの作成もあったが、ホールのフロントスタッフなどが中心となっている。
- C 委員 チケットを売る作業までも責任を持って行っていくことが育み隊に必要だと思う。

フロントなどのお手伝いは出来るが、チケットの販売には協力できないというのでは本当の意味でのサポートにはならない。やらされているというのではなく、自主的に販売まで責任を持って行っていくという気持ちがなければ、いつまでたっても盛り上がりは行かないだろう。

- A 委員 アートマネジメントカレッジを手伝っている中で感じることは、人数なのか質なのかという議論が先ほどもあったが、他の地域作りや福祉の活動と比べて、文化交流は当事者スイッチがやや弱いということだ。報告書に記載されている好事例であっても、よく頑張っておられるのは知っているが、アローブスタッフのサポートがあって何とか回っているのが現状。当事者スイッチが入って、対等なパートナーまで成りえていないのが正直なところだと思っている。よってその部分を、次の5年でどこまで底上げできるのかというのが大きなポイント。アートマネジメントカレッジも、原則連続10回の講座に出席できる方ということで募集しているが、ハードルが高くなってしまっている。アローブのスタッフとも相談して、来年からは初級編・中級編・上級編など3回に分けて門戸を広げて実施することも検討している。ただ先日の講座の中で嬉しい反応もあった。今年は10名弱の応募があったが、人数も少ないし自主公演などを企画したら負担も大きくなってしまうので、開館5周年の記念グッズを作成するぐらいにしようという意見が出た。アローブでは音楽系は実施しているが演劇は弱いように感じるので、劇団に所属していた経験を生かしチャレンジしたいという内容だった。演劇だと脚本もあり図書にも繋がるのでアローブにとっても良いのではないかとのことだった。また「館全体を使ったマルシェができないか」という意見もあった。そういった意見に対して、自身のネットワークの中から人を紹介できると言ってくれる参加者もいた。先程説明した講座を3回に分けて実施する方法に変更した場合、今回のような意見が出てくるのか。ハードルは高いが、今まで通り10回連続の講座の方が良いのではないかなど悩ましい。だからと言って毎年今年と同じような人たちが集まってくれるとも限らないので、どこに向かってやっていくのか本当に難しいと感じている。いずれにしても、参加者自身が当事者になってチケットも売っていくんだという強い気持ちを持ってやっていかないと、計画書の内容には程遠くなってしまう。

実際はアローブ職員さんにお膳立てしてもらった物に乗っかっているだけの市民になってしまっている。今後そこを変えていくことが求められており、そうでないと市民が文化の担い手になてなれない。実現は難しいが、底上げの為の努力は市役所や図書館部門とも連携してやっていきたい。図書館に学ぶ事は大いにあり、一緒に連携できると良いと思っている。勉強会の実施回数も図書館は目を見張るものがある。

- D 委員 2月にフランスの絵本を紹介をするということで、360冊の本を確保している。自分たちが勉強して得た事を、皆さんにおすそ分けする気持ちで実施しているグループが図書館には多い。
- C 委員 図書には図書と言う大きな分野があるが、文化はとても広い。自分の好きなものや感動したものを独り占めにするのではなく、みんなに伝えたいという気持ちで自身も活動している。育み隊の中でもそれぞれ好きで得意な分野があると思うので、それぞれの分野で中心

になった人がみんなを引っ張り、絶対に舞台を成功させるんだという意思統一ができて初めて育み隊の価値が出てくると思う。ただ人数が多ければ良いというものではない。得意な分野がある人をどれだけ集められるかと言うことが重要になってくる。幅が広いだけに図書とは少し違う部分があり難しい。

- D 委員 図書だと好きな分野がはっきりしているが、文化はクラシックあり演劇ありフェスがありなど分野が多いだけに、人を集めるのは大変なんだろうと感じている。
- C 委員 最終的に事業を成功させるというのは同じ目的ではあるが、興味がないものは関わりたくない、フロントスタッフだけ楽しくやりたいぐらいの気持ちではだめだと思う。
- A 委員 モチベーションの度合いはまちまちだと思うので、私は全員が企画者になる必要はないと思っていて、ゆるい関わりがあっても良いと思う。文化交流と図書が一番の違いは、文化交流は自分がパフォーマーとなって、音楽がやりたいとか演劇がやりたいとかいう人は結構いるし、誰が何と言っても成し遂げるというモチベーションも高い。ただそれを企画してプロデュースしようとする中間支援的な層は、大府は地方都市でもあるので、もともと薄い。そういった前提があるのに底上げしようとしている。上からやらされになっても今の時代はついてこないで、自分達の参加者スイッチを入れながら繋がっていけるかどうかポイントだと思う。
- E 委員 今は企画を自身でプロデュースしているが、その元となったのは「文化デザイン塾」だったと思う。自分達でいきなりイベントを企画して、チケットを売るところから勉強した。厳しく指導されたこともあったが、何としてもチケットを売り切つてやるという強い気持ちで頑張ることができたのは、年に1回イベントを企画したからだ。今の育み隊にはそれがない。ホールでなくても小さなイベントでも良いので、育み隊は年に1回これをやるという目標を立て、アロブ愛を持って活動して欲しい。再度「文化デザイン塾」方式を取り入れたらよいのではないか。
- A 委員 先程スタッフの異動についても議論もあったが、現状1名の職員さんが担当している。マンパワーの問題で出来ることと出来ない事がある。組織としてバックアップできる態勢が整っていないので、今日提案いただいた意見を元に、組織としてだれが担当しても市民参加や協働が自動的に進んでいくぐらいの態勢をみんなで作っていく必要がある。これは図書館でも同じことが言えるので、今日を契機にみんなで考えて行きたいと思う。
- E 委員 グループでサポーターになっている図書館の形を、文化の方でも作っていくのはどうか。小さな単位であれば動きやすく、意識の高い人たちが集まってくれるのではないかと思う。

～第2期おおぶ文化交流の杜中期事業計画「あしたの杜」図書館部門の説明～

司 会 ご質問ご意見をお願いします。

- D 委員 「満蒙開拓団の悲劇」の講座はコラビア交流会での成果で、普段図書館と繋がり無の団体との関係性が構築できてとても良かったと思う。今後も色々な団体との繋がりを開拓して欲しい。日本語以外の言語を母国語にしている方々が日本語を勉強するとか、文化に触れてもらうことを考えると図書館は大きな意味を持つと思う。大府には外国人労働者も多いので、図

書館に母国語の本があると安心感や日本語の勉強にも繋がるのではないかと思う。そのような取り組みはどうか。

T R C 国際交流協会に図書館として加盟し、そういったニーズも情報収集しながら活動をしている。ポートフィリップと姉妹都市を結んでいるので、今後イベントも開催したいと思っている。

D 委員 ポルトガルとかスペインの本がないので難しいが、そういった分野も期待したい。

A 委員 ニーズはありそうですね。

大 府 市 図書館には、将来の大府市民に現在私達が行っている事を引き継いでもらうことを期待したい。紙切れ一枚でも保管し公開し守っていただきたい。図書館と文化の枠に囚われず、例えば読み聞かせをホールでやるとか、超えられるものは超えて十分なパフォーマンスを発揮してほしい。行政としては、市民の方が自由にできるように、先に提案して頂ければ実現できるような枠組みを保っていきたいと思っている。

～H31 年度年間運営計画 文化部門・図書館部門より説明～

司 会 ご意見ご質問をお願いします。特別変わったところはないので問題ないでしょうか。では全体を通してご意見をお願いします。

F 委員 学習室の問題が解決されていないのが残念。開館 9 時 30 分の時点で満室になっているようだ。豊明の図書館を利用している人から、豊明はとても静かで環境が良いという話も聞いている。テスト前・長期休みなどそれぞれの対策はないのだろうか。

J C D キャパシティーとして図書館のグループ室をお借りしても 90 席程度しかない。この前の土曜日は開館前 40 名、日曜日は 90 名だった。おそらく今後の 3 連休は入りきれない状況だと思われる。現状スタッフが開館前に利用者に話しをして整理している。公民館を開放していただいてもいるが、距離感の問題だったりアローブの混雑が解消できているわけではない。どのようにしたら良いのかご意見を伺いたい。

F 委員 時間性や入替性もありかなと思う。現在の中高生はモラルが低下して来ているのも問題で、当たり前だったことが当たり前でなくなっているような状況だ。文字離れも進んでいる。アローブで、中高生が集まれるようなイベントを実施すると良いのではないかと思う。育み隊の議論に戻るが、舞台企画を運営するのに、全く知識のない人が行うのはとても大変である。今の状況を見ていると、舞台を知っている人が不在な中行おうとしているのが問題だと思う。人数についても常駐して企画に関わる人と、そうではなく流動的にスポットで関わる人がいても良いと思う。図書館のように専門のセクションに分けて活動をするともっと良くなるのではないかと思う。

学習室には多くの中高生が集まっている。アローブに集まりたいというモチベーションがあるのは確かだと思う。モラルの問題もあるが何か工夫して良い方向に向かうと良いと思う。今の時代にあった良い方法を次回までにそれぞれ考えましょう。

司 会 他に何かありますか。

大 府 市 ボランティアさんは市の自主事業にとってもとても重要になってくるので、市も連携して一緒にやって行きたいと思っている。

- T R C 図書館子どもまつりの責任者を5年間担当している中で、サポーターの皆さんにはとてもお世話になっている。やはり5周年を迎えるので、文化部門とコラボできたらもっとアローブが盛り上がると思っているので、よろしく願いしたい。
- J C D 早いもので開館から5年経ち、次の5年を図書館長やスタッフとも議論しながら進めてきた。その中で一番良かったところは、図書と文化から自然発生的にコラボしようという意見が出ていたことだ。今後も両輪でアローブを盛り立てていきたい。
- 事務局 次回運営協議会、開催予定は平成31年5月21日の予定。
今後も皆様に満足して頂けるように、スタッフ一同努力してきたいと考えている。
- 司 会 以上で協議事項はすべて終了した。閉会。